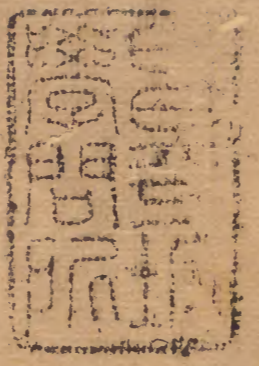


漢書類

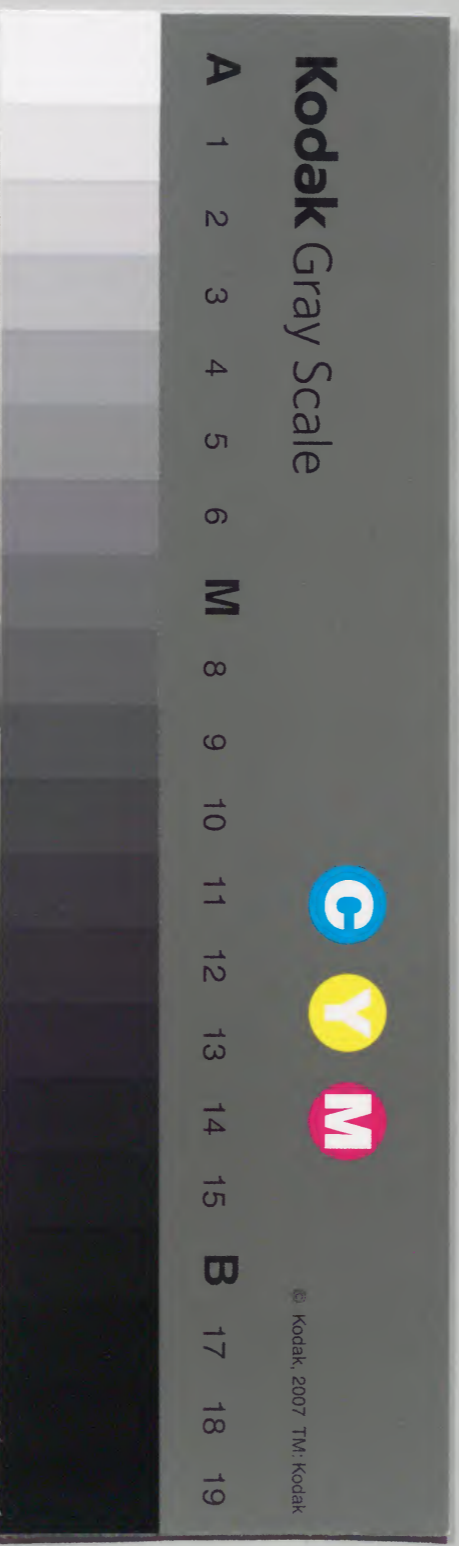
三百六十八



庫文閣内			
三六函	六六六册	八六九〇號	和書類

庫文閣内			
三九函	六六六册	八六九〇號	和書類

内閣文庫	
番號	和 18690
冊數	666(445)
函號	215 3



群書類従本巻二一五六下

遊戯部二

桐葉抄の目録

和書本

一 虎殿の花の事

一 法師のありかたの事

一 女入かまきり侍の花の事

一 虫除の花の事

一 ちりめんあざみの事

一 ちりめんあざみの事

繪巻部二  
繪巻保己集

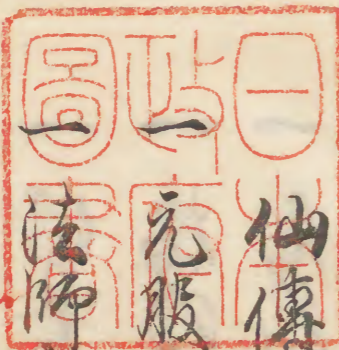
繪巻部二  
繪巻保己集

群書類従巻第三百六十

遊戯部二

仙傳抄一作書目録

記者未考



一 元服の花の事

一 少人おとりの花の事

一 出陣の花の事

一 わる海の花の事

一 さきたう花の事

淺草文庫

檢校保己一集

- 一 三鳥そくは花乃事
- 一 三鳥のすもみ花はくは事
- 一 赤あしの花乃事
- 一 ちりいさふれ花乃事
- 一 ひとらとせんの事
- 一 指のたれ乃事
- 一 名への花名事
- 一 舟人あはれ人をまじらむの事
- 一 七夕のぼか事
- 一 佛事法花の事

- 一 おもひのまへの法事
- 一 むじよ免とあはれまふ事
- 一 人あまのつ花乃事
- 一 河の志こころあはれまふの事
- 一 立ふれ花の事
- 一 梅もつらまの法事
- 一 岩りあはれ花の事
- 一 野いけのまふ事
- 一 とうらふ花の事
- 一 ふくそつ花の事

一 十のさくらびもの事

一 三のさくらびもの事

一 二のさくらびもの事

一 一のさくらびもの事

一 花助のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

一 花のさくらびもの事

- 一 藤一水河らるる屋らるる事
- 一 人乃方へ花をばらるる次母のり
- 一 後之の事なれり
- 一 田舎まじらひの事なれり
- 一 花の金まじりの事
- 一 時の花ばらるる事
- 一 事なれり

一 藤一水河らるる屋らるる事  
 一 人乃方へ花をばらるる次母のり  
 一 後之の事なれり  
 一 田舎まじらひの事なれり  
 一 花の金まじりの事  
 一 時の花ばらるる事  
 一 事なれり

- 一 元服乃花の事
- 一 藤一水河らるる屋らるる事
- 一 人乃方へ花をばらるる次母のり
- 一 後之の事なれり
- 一 田舎まじらひの事なれり
- 一 花の金まじりの事
- 一 時の花ばらるる事
- 一 事なれり

一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく

一 出陣乃ちれま枝のわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく

一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく

一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 衣の巻の毛もわらわの毛もあはれいへはひきく  
 一 毛のひきくもわらわの毛もあはれいへはひきく

一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...

一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...  
 一 魚... 帯夏...





下座より花のあきふみえふやうに二方へあひのせを  
 せしむるひともちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 かきふみえふやうに二方へあひのせを  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ

心をまろくししにふとあふふきえあつ又さ地  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ  
 一 樽のふれ事つけしのはめばさうたのよ下よあ  
 しとちるひくよ座へあひつけわさくもきよ

一 七夕の花の事すう一風とものなごる新と一河分  
 ありとにいとふあうり花あえんすうも下葉  
 早とよけあゆま入るん乃さく三光のなごく  
 一 魚一三重一あり  
 一 佛事乃花の事いし建も三光さくせいあある  
 をいさうひひあはにのさひくはあはあに  
 早とよけあゆま入るん乃さく三光のなごく  
 一 魚一三重一あり  
 一 ぬいあゆま入のなは事すう一後のこ入花のいん  
 をいけくあひせそ中つとのいん乃さくはとく

一 七夕の花の事すう一風とものなごる新と一河分  
 ありとにいとふあうり花あえんすうも下葉  
 早とよけあゆま入るん乃さく三光のなごく  
 一 魚一三重一あり  
 一 佛事乃花の事いし建も三光さくせいあある  
 をいさうひひあはにのさひくはあはあに  
 早とよけあゆま入るん乃さく三光のなごく  
 一 魚一三重一あり  
 一 ぬいあゆま入のなは事すう一後のこ入花のいん  
 をいけくあひせそ中つとのいん乃さくはとく

一 花のうしろを向くをそとをうつる也  
 一人をまわつたのち目撃する人のあつたをあひを  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ

一 花のうしろを向くをそとをうつる也  
 一人をまわつたのち目撃する人のあつたをあひを  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ

一 花のうしろを向くをそとをうつる也  
 一人をまわつたのち目撃する人のあつたをあひを  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ  
 せしめ下すふめて風の方へうつるの神よ



一 ちりしまへいあをさひしをそれよこるる系城さひ  
 うゆあまのりしきと花心乃おくへし一葉とお  
 へさひをそつる也とれも中人中れ向一の花の心  
 一 草乃系とせうとみとろし一もあかはんる花  
 一 野のけの花乃事其不入あ後減すくにゆて  
 一 木色おり一風のふはらぬくうはよあくらとまひ  
 一 さいやうり一ぬいもつてから林用は大事の也  
 あり

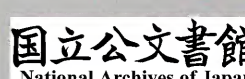
一 ちりしまへいあをさひしをそれよこるる系城さひ  
 うゆあまのりしきと花心乃おくへし一葉とお  
 へさひをそつる也とれも中人中れ向一の花の心  
 一 草乃系とせうとみとろし一もあかはんる花  
 一 野のけの花乃事其不入あ後減すくにゆて  
 一 木色おり一風のふはらぬくうはよあくらとまひ  
 一 さいやうり一ぬいもつてから林用は大事の也  
 あり

一 うとつちあくらとまはさひし入し一  
 うゆあまのりしきと花心乃おくへし一葉とお  
 へさひをそつる也とれも中人中れ向一の花の心  
 一 草乃系とせうとみとろし一もあかはんる花  
 一 野のけの花乃事其不入あ後減すくにゆて  
 一 木色おり一風のふはらぬくうはよあくらとまひ  
 一 さいやうり一ぬいもつてから林用は大事の也  
 あり

一 鷹<sup>鷹</sup>乃花の事其不入あ後減すくにゆて  
 一 草乃系とせうとみとろし一もあかはんる花  
 一 野のけの花乃事其不入あ後減すくにゆて  
 一 木色おり一風のふはらぬくうはよあくらとまひ  
 一 さいやうり一ぬいもつてから林用は大事の也  
 あり

ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より  
 一 ちまをぬき入物りよりぬきしむら抱筒より

十二月の夜の事下巻は何色もぬきしむら  
 正月松竹の事下巻は何色もぬきしむら  
 二月梅の事下巻は何色もぬきしむら  
 三月桜の事下巻は何色もぬきしむら  
 四月の事下巻は何色もぬきしむら  
 五月の事下巻は何色もぬきしむら  
 六月の事下巻は何色もぬきしむら  
 七月の事下巻は何色もぬきしむら  
 八月の事下巻は何色もぬきしむら  
 九月の事下巻は何色もぬきしむら  
 十月の事下巻は何色もぬきしむら



東一りりりりりり

八月のえりて下るさおろくさおろくさおろくさおろく

九月菊みりあるるるるるるるるるるるる

十月菊天とれおろくさおろくさおろくさおろく

十一月山志をひよれおろくさおろくさおろく

十二月山志をひよれおろくさおろくさおろく

三月山志をひよれおろくさおろくさおろく

四月山志をひよれおろくさおろくさおろく

五月山志をひよれおろくさおろくさおろく

六月山志をひよれおろくさおろくさおろく

七月山志をひよれおろくさおろくさおろく

八月山志をひよれおろくさおろくさおろく

九月山志をひよれおろくさおろくさおろく

十月山志をひよれおろくさおろくさおろく

十一月山志をひよれおろくさおろくさおろく

十二月山志をひよれおろくさおろくさおろく

一 五世の供のたれり事正月一日八日七日の柳下る

一 七世の供のたれり事正月一日八日七日の柳下る

一 十二月乃花三月乃花三月乃花三月乃花

一 用いさると本たらあはれり三月乃花三月乃花





一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり

一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり

一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり  
 一 草花の葉の形は草花の葉の形に似たり

あられ右方とれ色あてうらわしするあまのくろけ  
 うひうれまへ入り華開きくちあまのくろけと  
 雲目ばひく花うもくあつこよらてそあはり  
 免とあまのくろけくろけくろけくろけくろけ  
 ぬのおもてうてあつこくろけくろけくろけ  
 うにんくろけくろけくろけくろけ

一 我々そいふ花うらまのくろけくろけくろけ  
 とれよりあまのくろけくろけくろけくろけ  
 をあまのくろけくろけくろけくろけくろけ  
 又まのくろけくろけくろけくろけくろけ

まのくろけくろけくろけくろけくろけ  
 うぬあまのくろけくろけくろけくろけ  
 一 復くろけくろけくろけくろけくろけ  
 すあまのくろけくろけくろけくろけ  
 うまのくろけくろけくろけくろけくろけ  
 よろけくろけくろけくろけくろけ

一 花のくろけくろけくろけくろけくろけ  
 一 花のくろけくろけくろけくろけくろけ  
 一 花のくろけくろけくろけくろけくろけ  
 一 花のくろけくろけくろけくろけくろけ

一 三ノ下のみにりら赤いけりやとてきこひたるあり  
 一 あるふははらばきまのあらからたれものいよふ  
 やうれとていふのゆゑに物にほだお入るると一つ  
 一 何ふはをちんや一はるは右ふまをうにとくじ  
 又一はのめと見しほくららとていひひりせしをく魚  
 くさうしとてぬまめびき産まはしあり又のあや  
 りよめくちひま一  
 一 立花の産物ある大事なりとていふ也  
 一 もは三つとてく二つは三つなり三つは序破急脚の  
 ちりきしの指も少くちりくさあぐけ白の枝七

一 冬をきこひは下草丸は圓枝十に早梅十一あり  
 一 冬にけ十二あり中央花のつぼもく一具はほと  
 一 是れ一の口待ちあり  
 一 三具は小定ふとてはえり右長ね短ま位客位の  
 一 花をこひのちんまはこれの序なるふふら  
 一 冬にしつと下草まはしらあけり一はひ枝あり  
 一 右長ね短をのつら天上を下ま位ま位の花  
 一 を唯我指るともあはは花の根なる右長ねは練  
 一 を種は法ねおたふ人あはちとてすんは  
 一 つも草ありのつらまはちのり口待ち又たあり



一 暮草の花はちりけくむら返らふはさしにむら返らばるゝ  
むら返らばるゝのむら返らばるゝをむら返らばるゝの  
花をむら返らばるゝ一たはむら返らばるゝ一花をむら  
返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ一  
破意の花はまよふはるゝのむら返らばるゝ  
又海鳥の河をむら返らばるゝ一むら返らばるゝ  
の物をむら返らばるゝの物をむら返らばるゝの  
むら返らばるゝのむら返らばるゝ一むら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝ一むら返らばるゝ  
りてつむら返らばるゝのむら返らばるゝ一むら返らばるゝ

多くの草花はさしむら返らばるゝのむら返らばるゝの  
草花はさしむら返らばるゝのむら返らばるゝの  
少むら返らばるゝ一花をむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
らむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
客人のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
客人のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ  
のむら返らばるゝのむら返らばるゝのむら返らばるゝ







ありの如く書くは南の書くは東より西に流るるなりそめ  
 りりありとてさるるなりとていふなり也  
 一 さいほく枝の事

十 ありの枝

ト ありの枝の事

四 ありの枝の事

Y ありの枝

ト ありの枝

巾 ありの枝

ト ありの枝

ト 向ふはよとんと地の枝花の事

ト さらさらと出陣の事

4 ありの枝

十 ありの枝の事

ありの枝

一 ありの枝の事

ありの枝の事

ありの枝の事

ありの枝の事

ありの枝の事

一 予の所を以て我が國に於ては  
 一 其の意を以て我が國に於ては  
 一 其の意を以て我が國に於ては  
 一 其の意を以て我が國に於ては  
 一 其の意を以て我が國に於ては  
 一 其の意を以て我が國に於ては  
 一 其の意を以て我が國に於ては  
 一 其の意を以て我が國に於ては

一 其の意を以て我が國に於ては

天長地久

諸佛列座

皇極經世

元元聖教

徳仁恭徳

英命長壽

富貴自在

一 行を以て我が國に於ては  
 一 行を以て我が國に於ては  
 一 行を以て我が國に於ては  
 一 行を以て我が國に於ては  
 一 行を以て我が國に於ては  
 一 行を以て我が國に於ては  
 一 行を以て我が國に於ては  
 一 行を以て我が國に於ては

一 蓮のつぼみけいふらむはなはもあはれりやうとてゆいて切  
 ら花よしのまねらふらばなほなほの *the capital mountains*  
 一 花いふとあらるやうに花の本葉ははなはな  
 一 花さけはなはなはなはな  
 一 蓮の花は花のつぼみけいふらむはなはもあはれりやうと  
 けそそふりてふりてふりてふりてふりてふりてふりてふり  
 五下首より一箇年よのものをを用ひすといふ女  
 ちりちり後へてふり

一 花のつぼみけいふらむはなはもあはれりやうとてゆいて切  
 て花よしのまねらふらばなほなほの

一 花のつぼみけいふらむはなはもあはれりやうとてゆいて切  
 すはなもなほらふらふらむはなはもあはれりやうとてゆいて切

一 枝の一二の事地よ草本まますゆいふらふらふらふらふら  
 一 花のつぼみけいふらむはなはもあはれりやうとてゆいて切  
 人と用へてはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな  
 一 人あつて花をさふはなはなはなはなはなはなはなはなはな  
 一 花をさふはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな  
 一 花をさふはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな  
 一 花をさふはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな  
 一 佛前の花いふはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな

一 おもむくややく位の花の枝乃とも風情あるやと云はるは

一 花の枝乃事主居の花乃右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 花の右なり客のむむの左

一 ちぢりしつらりてあしをうらふあるはなをみる  
 一 生花の事春のさる花を美しむはあつる也  
 一 死花の事秋のまじをむるはあつる也  
 一 此ら理と生花をみる  
 一 夏の松の枝をすくくく地をすくく  
 一 下者くくくくくくくくくくく  
 一 秋の風をくくくくくくくくくくく  
 一 冬に雪をくくくくくくくくくくく  
 一 春に花をくくくくくくくくくくく  
 一 夏に木をくくくくくくくくくくく  
 一 秋に葉をくくくくくくくくくくく  
 一 冬に氷をくくくくくくくくくくく  
 一 春に雪をくくくくくくくくくくく  
 一 夏に木をくくくくくくくくくくく  
 一 秋に葉をくくくくくくくくくくく  
 一 冬に氷をくくくくくくくくくくく

一 柳を志しし事  
 一 美友林を志しし事  
 一 けつを志しし事  
 一 紅葉を志しし事  
 一 冬に雪を志しし事  
 一 春に花を志しし事  
 一 夏に木を志しし事  
 一 秋に葉を志しし事  
 一 冬に氷を志しし事  
 一 春に雪を志しし事  
 一 夏に木を志しし事  
 一 秋に葉を志しし事  
 一 冬に氷を志しし事

谷川流

一 菖蒲花のしほありつゝあはれまはるるよりのふとく  
 一 五月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 六月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 七月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 八月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 九月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 十月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 十一月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 十二月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる

一 五月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 六月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 七月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 八月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 九月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 十月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 十一月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる  
 一 十二月のつばき花の事申す中をさうりつゝあはれまはるる

一 一から花親のありとあるをゆるめたる木のこけし  
 一 者ついでに花親のありとあるをゆるめたる木のこけし  
 一 みしうき下入りつらきものをけし  
 一 ちかばののちかばをけしけしおへるをゆるめたる  
 一 たつとつらき花のこけしをけしおへるのこけしをゆるめたる  
 一 葉のこけしをけしおへるをゆるめたる  
 一 尺のねあつとつらきものをけしおへるをゆるめたる  
 一 とつとつらきものをけしおへるをゆるめたる

定家

定家の事おきけしおへるをゆるめたる

又かくせらるゝすけり松自栴梁の安有とつらき

色い充脂りしとつらきとつらきものをけしおへるをゆるめたる

一 花のこけしをけしおへるをゆるめたる

一 陽氣をけしおへるをゆるめたる

一 花のこけしをけしおへるをゆるめたる

一 やうせらるゝつらき花のこけしをけしおへるをゆるめたる

一 花のこけしをけしおへるをゆるめたる

一 花のこけしをけしおへるをゆるめたる

一 花のこけしをけしおへるをゆるめたる

一 花のこけしをけしおへるをゆるめたる

一 奥題之別紙

一 柳花をまねて佛立せの昔よの未せり今小玉  
 みるんとい定ぬりてさよとさかろしゆこれ一歩の  
 香と花とあはれなむしつとふくさりあつたことか  
 めり  
 一 三具足り花とさうくあつらうして右長ね親吉合  
 遠道とまへく一歩く枝の意想して枝の智恵を  
 思ひ入  
 一 右長とさうの友へさうくせとせとあへ出さうして在  
 ぬはたさうの地を短とさういあへさうくおとみ  
 けりさゆり神とさうく古とさうくあつらうして座のさうめ

一 蓮とさうとつみかきとさうあつた花とさうくまこと風情  
 さうくみえあつた本とさうく迎とさうくあつたのあつた  
 はあつたさうくさうくあつたをさうくあつた  
 一 花の本はさうとさうくあつた人さうのさうくあつた  
 さうくあつたさうくあつたさうくあつたさうくあつた  
 本はさうのさうくあつたあつたさうのあつたさうくあつた  
 本はさうのさうくあつた  
 一 公方様御成の時をさうくあつたさうくあつた三具足香籠  
 ありの蓋かつたことと身はさうくあつた也はさうくあつた  
 と云也さうくあつたをさうくあつた中は香籠はさうくあつたさうくあつた



一番とこねよ花瓶右小ちうくあはし耐の都ハ燭茶の  
 ほうははらひて右長くお程く可立眼花瓶ハ眼  
 乃燭のお小口のて車茶をてまうりりとも也ねの  
 箱のまへの花ハまをてねとつけて右長を程と立  
 無しは花瓶ハの空ハ曲茶をりくふさうへ  
 茶をの花瓶志ん中及松とてあふふも枝のふ  
 ちんはまうふかあり  
 一五ふくつはのりけあよは徳もえ  
 一舟そののまの舟に七うさりともいふ事す河の是ハ  
 ほうれたの二花瓶ハの中は三の目茶のほうハ目花瓶

一とおにをくありよ花瓶とと由よをく徳もあり  
 一とねみ志定て回茶の徳も無し然いまふ秋を  
 ちんはしはのりけあくあふかのさあふふ  
 そののまへの花ハまをてねとつけて右長を程と立  
 無しは花瓶ハの空ハ曲茶をりくふさうへ  
 茶をの花瓶志ん中及松とてあふふも枝のふ  
 ちんはまうふかあり  
 一五ふくつはのりけあよは徳もえ  
 一舟そののまの舟に七うさりともいふ事す河の是ハ  
 ほうれたの二花瓶ハの中は三の目茶のほうハ目花瓶

一 花びらばす人魚一物一しん一の身  
をとり無一ちやんこのくらんしとちんらん  
乃養一し人魚一ひらこのしのおん又ら  
しんの身あしとれら人魚をくまらんとて  
しててと地也

一 海のものに五少も一しん一ひしん一  
一画一画一しん一ちん一をくまらんとて  
中は中にけし海にふまら一右一しん一合と  
あり種々のは傳あり

一 石ころのまふかよふ下をくへしと板と石

一 乃山の尾よりよろこぶははいてをくあつた  
一物あををくしん一の中をくあつたひも  
あはうとわく海とよまをくま本也をくま  
まのいんもくく公を板板よをくへし一食籠ひと  
川酒の入物一食一ちやん一の物あつた又を  
乃もの一食籠一箱一しん一はか一あ  
類の物みかくらり合てき成ま葉赤白黒  
をく也らしひもかろしてなるまてか  
公あまらくもくへしちんくらく一はく  
あつた中のまらりしん一又葉は花籠か

冬下のまじにさきへたゆき  
 一 柱花籠のまじに下の花を回あさりあけりか  
 るけけくくやうにゆるる也

一 雨成乃付松まのまじは木は枝をうへゆる  
 と野の柳まのまじはゆるるにゆるる也

一 三具足乃番谷のくわり三すあひり二はくわり  
 一 風物乃系はゆるる押板りすも実かまのまじは  
 をお繪の甲へののまはゆるるへし琴のまじ  
 かりゆるる本あり

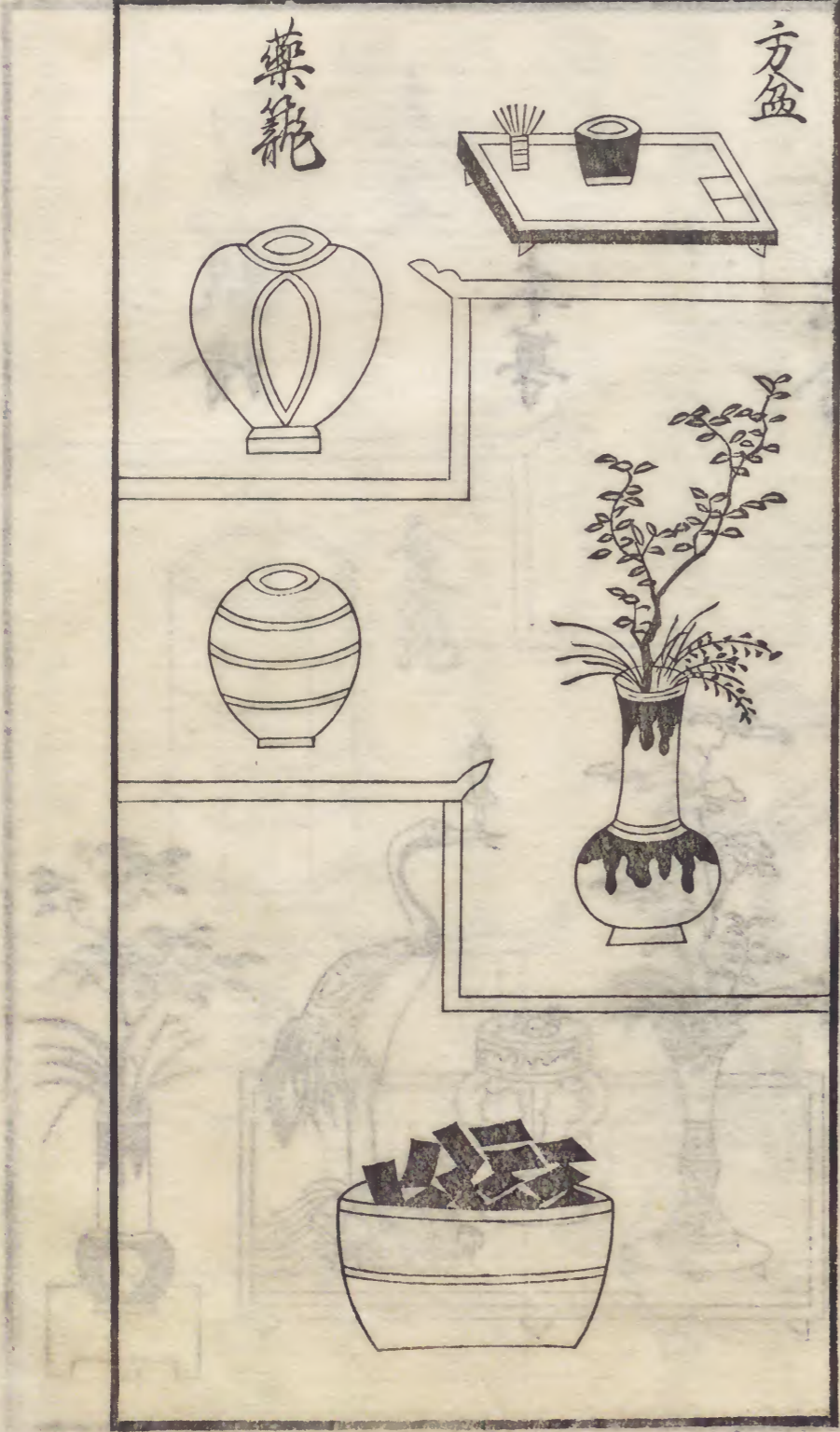
一 冬下板乃まじにさきへたゆき  
 とし板乃まじにさきへたゆきあり南のゆるるい  
 ださすこあひ

一 冬下板乃まじにさきへたゆき  
 むもやくらこむなはゆるる書院より小座  
 ありまの也

一 風物乃まじにさきへたゆき  
 のまじはゆるる中奥乃卓はゆるる也  
 をし板乃まじにさきへたゆきあり

一 火物乃まじにさきへたゆき  
 板佛あし乃まじにさきへたゆきあり

一 嗅鏡をの書院乃天井の中なりとよははる人  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ  
 一 ちやのいとし 公方様は哉の書院らしとあられ



方盆

薬籠



一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
けるしよ也

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ  
ちりひさ乃花とらふ下草と一方へなひせぬ

一 花瓶の口より対しき人々を花魁とのいふは  
 こそいらくうらふらふとていふ人々のいふは  
 らちのいふはとていふ人々のいふは  
 一 花魁のいふはとていふ人々のいふは  
 こそいらくうらふらふとていふ人々のいふは  
 らちのいふはとていふ人々のいふは  
 一 花魁のいふはとていふ人々のいふは  
 こそいらくうらふらふとていふ人々のいふは  
 らちのいふはとていふ人々のいふは

一 花魁のいふはとていふ人々のいふは  
 こそいらくうらふらふとていふ人々のいふは  
 らちのいふはとていふ人々のいふは  
 一 花魁のいふはとていふ人々のいふは  
 こそいらくうらふらふとていふ人々のいふは  
 らちのいふはとていふ人々のいふは  
 一 花魁のいふはとていふ人々のいふは  
 こそいらくうらふらふとていふ人々のいふは  
 らちのいふはとていふ人々のいふは

一 當壁をよみてはしるすのうらみはなほ  
あり

一 草花のよきものはなほありてはなほ  
あり

一 花のよきものはなほありてはなほ  
あり

一 花のよきものはなほありてはなほ  
あり

一 花のよきものはなほありてはなほ  
あり

あり

一 花のよきものはなほありてはなほ  
あり

一 草花のよきものはなほありてはなほ  
あり

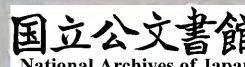
一 草花のよきものはなほありてはなほ  
あり





一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 うに草ももはさへしよ  
 一 是をいさし草も中へもはさへしよ  
 たるいさし草も  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 下句いさし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ

一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 おはし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 あんいさし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ  
 一 是のつゝも地時いさし草も中へもはさへしよ



花枝をよむ者の枝さへ梅ひんら梅もあつて  
 してあつた事さへあつてあつて  
 又さう入るや意世のさへ智恵のさへ  
 さへ右のさへさへあつた乃さへ  
 梅一知く枝の意世あつたあつた  
 枝也

一 絵をうけうたる花の事 親音小柳

天祥と梅 虎小竹 結り松 古入

うらあふれ 意人よまこのあふれ 意人

うらうらあふれ 意人小風信あふれ 馬鞍

うらあふれ 獅子にあつたあふれ  
 乃あふれ意世あふれ 意人さへ  
 意人さへうけうたる也

一 意人あつたあふれのこと 意人さへ

う 揚りあふれ 意人あふれ

さへあふれさへ 意人さへ

さへあふれさへ 意人さへ

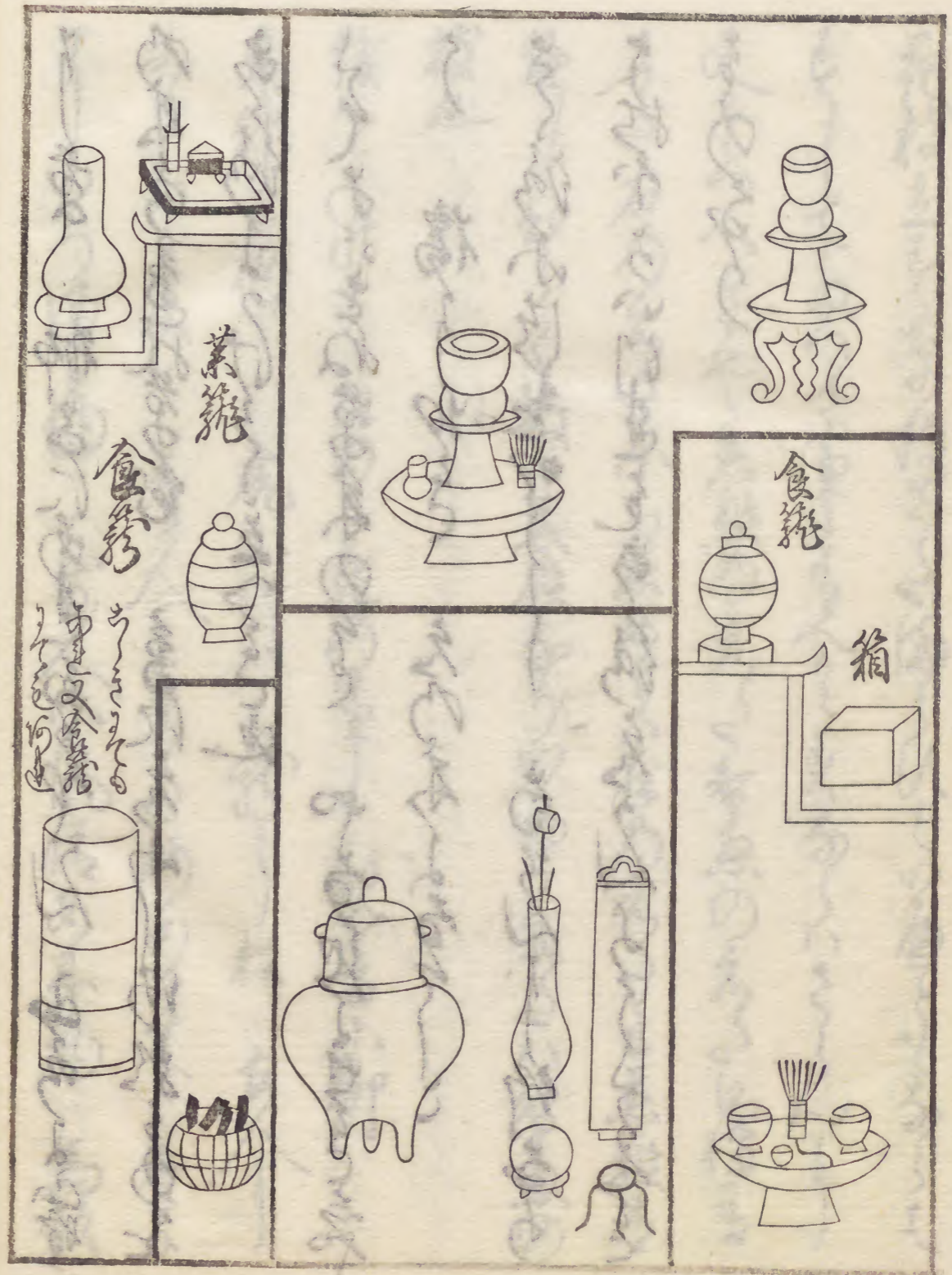
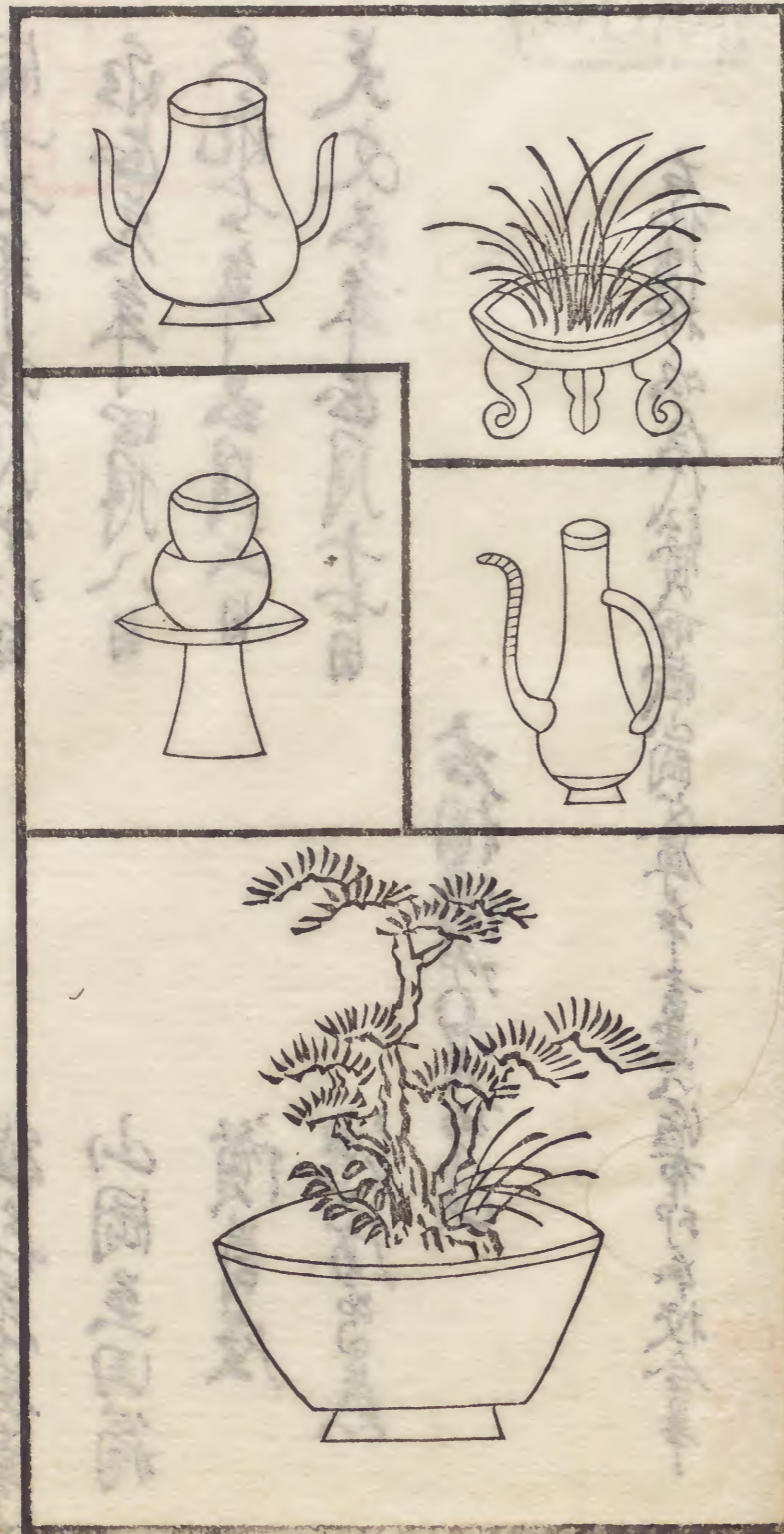
さへあふれ



此仙傳抄一他者三條后御秘本於政公依清而重  
 文安二年三月廿五日  
 寬正二年二月八日  
 富阿弥相傳  
 武部三位法重

三十一

四十二



文明四年九月十三日

同八年九月廿九日

同九年正月廿五日

同十七年九月十八日

永正元年四月八日

大永七年五月二日

天文五年正月十七日

任女主人實嗣

道筒每

宣威院榮得

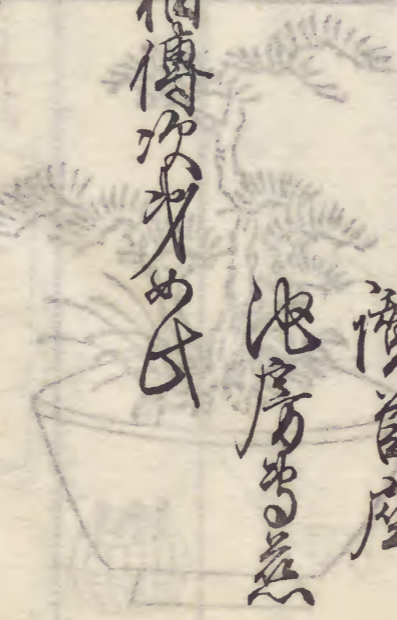
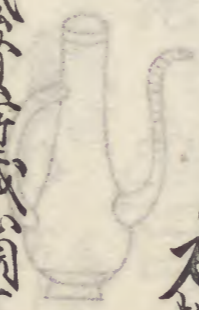
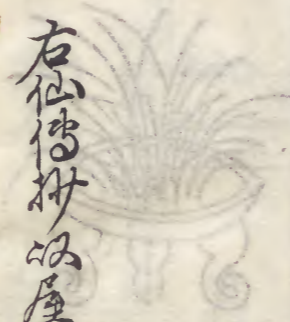
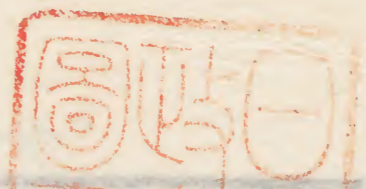
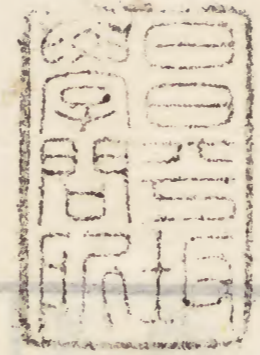
禪社後芳亭

山岡至因翁

懶首座

池房忠意

右相傳次女女



右相傳抄以歷代秘寶所藏山岡文庫幸書寫以流布印本校合畢

慶應七年

